

Ⅱ. 2020（令和2）年度相談員別の年間活動報告

1 相談件数

1 相談内容

育児、家族関係、家庭教育などに関する相談	3
生活指導、学業不振、不登校、校内暴力などに関する相談	8
就学、就労などに関する相談	52
余暇（自由時間）活動に関する相談	23
公的制度の利用に関する相談	0
専門職活動に関する相談	43
障害（※）に関する相談	60
その他	3
合計	192

（※）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱、言語障害、自閉症スペクトラム障害、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、重複障害、精神障害など

2 年齢別

0歳以上 6歳未満	104
6歳以上12歳未満	23
12歳以上15歳未満	6
15歳以上18歳未満	7
18歳以上	52
合計	192

3 相談の方法

電話	メール・文書	学内面接	学外活動	その他	合計（内 継続（※））
26	14	11	134	7	192（111）

（※）継続相談契約に基づく定期的な相談

2 相談員別の年間活動

岩 井 浩 英

令和3年度の活動も、例年同様、1) 県内の学校ソーシャルワーク推進に関する活動、2) 本学学生からの学生生活等に関する相談対応、3) その他の相談活動としたが、新型コロナウイルス感染状況が終息せず、また、昨年度からの学部長職が多忙となったため、主に1)と3)の活動を行うのみとなった。

ただ、県教育委員会主催の連絡協議会・研修会についても、コロナ状況のため中止措置や紙面（紙上）開催に変更された。

任意団体「かごしま学校ソーシャルワークを進める会」（以下、「進める会」という）では、令和3年度、計3回の企画を立案したが、コロナ状況も鑑み、第1回は中止措置、第2回と第3回はどちらもオンライン会議の形で開催した。また、進める会代表として、県教委主催の「いじめ問題対策連絡協議会」および「鹿児島県教育機会の確保に関する意見交換会」への出席要請を受けた。

なお、3) その他の活動として、令和3年度も、いくつかの関連する自治体設置委員会の委員（長）等を継続した。

古 賀 政 文

本年度は、1) 特別支援学校等の児童生徒及び保護者、教師等の相談等への対応、2) 障害のある子どもの具体的な指導・支援の推進、3) 地域との連携を通じた地域福祉事業の取組を中心に行った。

- 1) については、特別支援学校に在籍する児童生徒及びその保護者、教師への相談として、児童生徒の実態把握や状態等に応じた指導についての相談に対応した。また、引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策関係に関連する児童生徒等の行動についての電話やメールでの相談が多くを占めた。新型コロナウイルスで活動場所が限られ、家庭等での活動内容についての相談があった。
- 2) については、実際の保育所等を訪問し、障害のある子どもの状態等を参観し、具体的な環境整備や支援方法について、担任等と協議したり、保護者との相談活動を行ったりした。保護者からは睡眠リズムやコミュニケーション・言葉、情緒面の課題等の相談があり、対応した。
- 3) については、錦江台まちづくり協議会社会福祉部会の委員の委嘱を受け、副会長として、在宅独居高齢者、認知症高齢者等の見守り活動等の企画・実施に協力した。また、まちづくり福祉部会が開催した福祉に関する研修会で、「心のバリアフリー」に関する講演を行った。

本年度の計画に基づいて、以下の活動を行った。

- 1) 発達支援事業所において音楽療法を行い、共にセッションを行う音楽療法士に具体的な助言を行った。感染症の状況を見極めながら、オンラインの活用も行き、毎回のセッションの前にはプログラムの作成にもかかわった。特にねらいを具現化する音楽活動の在り方を検討した。事後の振り返りも事業所スタッフの全員で行う場が定着し、音楽行動とした現れた子どもの姿について共有できた。
- 2) 学内において「親子ふれあい音楽あそび」を開催した。定例の事業として定着し、第5回目となったが、感染症の状況によって計画の変更、延期等を繰り返し、結局学内関係者とそのお子さんを対象に規模を縮小して行った。
- 3) 主宰する音楽療法研究会は設立20周年を迎えたが、記念事業等については翌年に持ち越すこととし、講演会の企画・準備に取り組んだ。
- 4) 障害のある青年に対するピアノレッスンを継続しているが、ともに演奏を行うほか、コロナ禍における演奏活動の在り方について、母親との情報共有を積極的に図った。
- 5) 施設における活動展開等についての相談に応じ、助言を行った
- 6) 本学科の学生・保護者、卒業生の相談に応じた。

昨年度に引き続き、本年度もコロナ禍のため、当初予定していた活動内容を変更せざるを得なかった。結果的には以下の内容を実施している。

- 1) 肢体不自由特別支援学校や医療福祉センターでの講演
 - ・特別支援学校での摂食・嚥下指導や医療福祉センターにおいて重度重複障害児への指導の在り方について講演を行った。
- 2) 県の教育センターや鹿児島市教育委員会主催のパワーアップ研修会の講師
 - ・県の教育センター主催の「訪問教育」の研修会やパワーアップ研修会の講師、また市教育委員会主催のパワーアップ研修会での講師を務めた。
- 3) 特別支援学校における肢体不自由児を中心とした支援の在り方についての指導・助言
 - ・県内の養護学校へ出向き、重度重複障害児の実態把握と指導の在り方について、指導・助言を行った。
- 4) 療育施設での言葉の指導
 - ・療育施設の未就学児に言葉の指導を行った。
- 5) 本学学生の学生生活等に対する相談
 - ・本学の担当クラスやゼミ生を中心に、学習や生活面を中心とした相談に応じた。